

生物科学学会連合 第10回連絡会議記録

日時： 2003年5月15日（月）午後2時～4時
場所： 生物科学学会連合事務所内会議室（東京・本郷）
出席者： 石和 貞男（世話役，日本遺伝学会） 河田 光博（日本解剖学会）
増山 典久（日本細胞生物学会） 舘野 義男（日本遺伝学会）
小幡 邦彦（日本神経科学学会） 村松 喬（日本生化学会）
堅田 利彦（日本生化学会） 正木 春彦（日本生化学会）
八杉 貞雄（日本動物学会，日本発生生物学会） 深田 吉孝（日本比較生理生化学会）
山本 正幸（日本分子生物学会） 多羽田 哲也（日本分子生物学会）
中山 利憲（日本免疫学会） 松木 則夫（日本薬理学会）
オブザーバー：黒岩 常祥（立教大学理学部）
小林 興（元東京学芸大学）
（欠席） 日本植物学会 日本植物生理学会 日本神経化学会 日本生理学会
日本生態学会 日本生物教育学会 日本生物物理学会 日本生理学会
日本比較内分泌学会（敬称略，学会名五十音順）

配布資料： 0. 第10回連絡者名簿（2003.11.12）
1. 第9回連絡会議記録（案）
2. 研究体制に関する提言
3. 日本学術会議第141回総会資料
4. 科学研究の国費助成のありかたについて
公開シンポジウム「理科系教育の再生を目指して」

議事要旨：

1. 第9回記録の確認（資料1）

原案通り承認した。

2. 日本学術会議の最近の動向について（資料3）

同会議第4部委員でもある石和世話人より，日本学術会議のあり方，総合科学技術会議との関係，組織，制度の改革について概略が説明された。

3. 研究体制について（資料3）

第9回連絡会議では，生物科学学会連合は日本生化学会が文部科学省等関連諸機関に提出した「研究体制に関する提言」に基づいたものに加筆修正を加え，連合の提言をまとめることとした。前回連絡会議以降，各加盟学会から意見が寄せられ，若干訂正が加えられた。日本生化学会前会長の村松 喬先生より，本提言は大学院生は経済的に自立するための経済的支援，数が年々増えているポストドクターの就職の問題，科学研究については基盤研究（B），（C）の優先的増額，年度越え使用の許可，審査員選出方法についてが柱となっている。前回会議以降で集まった意見を基にあらたに加えた点は，ポストドクターが現場で学んだことを中等教育の教員として役立てていただきたい，言わばポストドクターが教職免許を取得し

やすい環境をつくるという希望を盛り込んだ点であるとの説明があった。9月に日本生化学会として科研費の年額500～1000万円の増額、その他案件について日本学術振興会に陳情に行ったが、その案件については学術振興会も文部科学省もよくわかっているとの返事であったが、大幅予算増額となると、総合科学技術会議まで話がいきわたらないと動かすことが出来ないという意見もいただいたとのことであった。

内容に関しては大幅な修正はしない方向で了承を得たが、文言について、大学院生は学費を払う立場ではなく、科学を支えている立場であるのが本来の姿である、というような一文を加えてほしい等の意見があり、再度、文章を練り直してそれを回覧することとした。

3. 教科書WGの経過報告（正木春彦氏）

同WG副委員長の正木春彦氏（日本生化学会）により、現状としては何もできていない状況にあることに対し謝罪の言葉があり、時間的制約、また生物科学学会連合という看板を背負うことに重圧を感じていることから生科連とは距離を置いた形で自身のライフワークとして本件に取り組んでいきたいという希望を受け、連合としてそれを了承し、できる限り正木氏をバックアップしていくことが確認された。

4. その他

情報が執行部止まりではなく会員にまでいきわたるようにすることの必要から、諸連絡、および資料配布はなるべく電子メールを活用することとした。連絡会議での決定事項などは各学会のホームページに掲載するなどの活動を行うことが検討された。

4.

5. 次回連絡会議について

第11回連絡会議は来春を開催予定。

以上